

## 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価

令和8年2月24日  
札幌市立上篠路中学校

## 1 学校教育目標と目指す生徒像

【学校教育目標】～明るい未来を拓く～ 社会に自立する生徒の育成  
 <体> 健全な心身を鍛え、強い意志と誇りをもって行動する生徒  
 <徳> 郷土を愛し、広く温かい心をもって協力し合う生徒  
 <知> 進んで知性を磨き、ねばり強く努力する生徒

## 2 スローガンと重点目標

【スローガン】新しい未来を創り出す人材に! ~想像しよう、挑戦しよう! つながろう、つなげよう!~  
 ○生徒理解に立った生徒指導の充実 ○「学ぶ力」・「健やかな体」の育成  
 ○「豊かな心」の育成・一人一人を大切にされた教育 ○「信頼される学校」の推進

## 3 自己評価結果

	評価項目	自己評価		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ	
教育課程	目指す学校像・生徒像の明確さ	A	学校だよりや、学校ホームページ、各種配付物などのさらなる充実を通して、本校の教育目標やスローガンの周知を図る。また、学校教育目標や目指す生徒像と結びつけた教育課程を編成、推進し、教職員の意識の向上を目指す。	A	A	
	教育課程の編成	A	学校教育目標「社会に自立する生徒の育成」に向けて、自己肯定感や自己有用感を高める教育課程の編成に努める。			
学校関係者評価委員による意見		「すぐー」で必要な情報を発信してくれているので、ホームページの閲覧数は減っていると思う。それぞれの特徴に応じて使い分けていくことが必要。自己肯定感や自己有用感については、小学校から一貫した取り組みを進めてほしい。				
学習指導	「学ぶ力」の育成に向けて	学習意欲・学習習慣	B	「意欲をもって粘り強く、自分から進んで学習することができた。」という質問に対しては71%、「授業中、私語をせずに集中して先生の話を聞き、理解している。」では、74%の生徒が肯定的な回答をしているが、「発言したり、進んで作業したりするなど、授業に積極的・意欲的に参加している。」という質問に対しては、肯定的な回答が61%に留まっている。より生徒の発言や積極性を引き出すことを意識した授業を実践する。	A	A
		指導法の工夫・改善、評価	B	保護者に対する「お子さんは、授業が『楽しい』『分かりやすい』と言っていますか。」という質問に対しては、肯定的な回答が昨年度の53%から57%となっている。また、生徒に対する「自分に合った勉強の仕方が分かっている。」という質問に対しては、肯定的な回答が昨年度の56%から49%に留まっている。生徒一人一人が自分に合った学び方ができるよう、指導の個別最適化をした授業をつくる。		
		総合的な学習の時間	A	昨年度に引き続き拡大チャレンジングタイムを実施することができたが更なる充実を目指す。生徒が自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、問題を解決する力を育むことができるように、また、3年間を通じてキャリア教育を進めていくことができるよう、全体計画の見直しを図る。		
		進路指導	B	保護者に対する「進路に関する情報や資料が、学年に応じ適切に提供されていると思いますか。」という質問に対して肯定的な回答が昨年度の69%から62%にとどまり、「わからない」が16%あった。生徒に対しては、今後も3年間を見通した進路指導をしっかりと行っていくとともに保護者に向けても、進路だよりの発行を効果的に行い、学校、生徒、保護者がお互いに理解しながら生徒の進路について考えていけるように努めていく。資料の配布や掲示等は行っているが、保護者にまで渡っていないことも考えるため、生徒への保護者へも見てもらう旨の指導をしっかりと行っていく。		
	特別活動	A	生徒が行事や委員会などの取組に対して高い満足を感じていることはアンケート結果からも見て取れる。今後も、生徒自身が自己肯定感や自己有用感をもてるような特別活動を推進していく。			
学校関係者評価委員による意見		多様な能力に応じた授業を40人近い生徒を相手に実施することは非常に困難であると感じる。タブレットの活用等を進めて、個に応じた学習を進められるような工夫が必要になってくる。先生方は、一生懸命授業を行っていることは分かって、保護者にそれが伝わるようにしていくことが大切だと思う。				

	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	「豊かな心」の育成に向けて			A	A
	道徳性・規範意識	A	昨年度は75%から84%の保護者が肯定的な回答をしている。また、「当番活動（給食や清掃など）に意欲的に取り組んでいる。」という質問に対し、昨年度同様92%の生徒が肯定的な回答をしていることから、道徳の実践力が育っていると考えられる。今後も道徳の授業を通して道徳性や規範意識の向上を図り、日常の生活の中でも機を逃さない指導を心掛けていく。		
	基本的な生活習慣	A	挨拶やきまりへの意識は高く、基本的な生活習慣は生徒、保護者ともに身に付いていると感じている。今後も教職員から積極的にあいさつをして、自然とあいさつができる環境作りに努める。		
	生徒理解・指導	A	生徒、保護者ともに「学校は困ったときに適切に対応してくれている」と答えている。引き続き年2回の教育相談日を充実させることと、日常の何気ない場面でのコミュニケーションを大切に、問題の早期発見・解決に努めていく。		
	安心・安全の学校 いじめの防止・対応	A	生徒との信頼関係を構築し、相談しやすい環境作りを進めると共に、いじめの未然防止や早期発見、解決に努め、安心・安全な学校作りを目指す。		
ネットモラル教育	B	保護者に対する「生徒に、ネットやSNSなどのネットモラルへの意識が高まってきていると思いますか。」という質問に対する肯定的な回答は、55%と昨年度同様である。現在、SNSによるトラブルは以前と比べ多くはないが、社会全体では増加している。今後もネットに関わる正しい知識を身に付けさせるよう指導を行う。			
学校関係者評価委員による意見		職場体験の取り組みで、先生と生徒との信頼関係が築けていると感じる場面があった。暖かい雰囲気の中で生徒に接してくれているので安心感がある。今後も、上篠路中学校の規模に応じた生徒指導を進めていってほしい。			
健康安全指導	「健やかな体」の育成に向けて			A	A
	体育に関する指導	B	「健やかな体の育成」に向けて、体育行事の充実を目指しているが、日常的に体を動かす習慣がある生徒とそうでない生徒との格差がある。体育の授業や体育大会、大縄跳び大会、冬のスポーツデイ等を通じて、運動の意義や楽しさについての啓発を進める。		
	健康・安全指導	A	「生徒に、安全に気を付け、健康的な生活を送ろうとする態度が育っていると思いますか。」という質問に対しては、昨年度の70%から76%の保護者が肯定的な回答をしている。今後も、「保健だより」の発行や掲示物を通し、内容を指導することで、自らの健康を改善できる知識を習得して実践できる力が育つよう、教科・領域を横断した「健康への学び」を実現するよう図る。		
	食育	B	「生徒に、食事のとり方や栄養など、食に関する関心が高まってきていると思いますか。」という保護者への質問に対する肯定的な回答が昨年度58%から62%であった。今年度、ランチルーム給食を2回行うことができた。今後さらに食事の取り方や栄養面について給食だより等で情報を提供し、さらに興味、関心をもつことができるように努める。		
	環境美化	A	保健常任委員会の清掃点検や日常の清掃指導などを通して、生徒が高い環境美化意識をもち、きれいな学習環境が維持できている。さらにゴミの分別や3R（リデュース・リユース・リサイクル）への意識を高める。		
災害への対応	B	「生徒に、災害等の緊急時に適切な対応ができる力が身に付いていると思いますか。」という質問に肯定的に答えた保護者は昨年度同様53%程だった。避難訓練は2度実施することができたが、さらに機会を捉え、外部講師等も活用しながら、災害等の緊急時の対応についての教育を充実させていく。			
学校関係者評価委員による意見		運動習慣に関しては、二極化が進んでいるように感じる。学校では大縄跳び大会などを行っているのですが、体を動かす楽しさを多くの生徒に知ってもらいたい。アンケートの結果が低いのは、取り組みの内容よりも保護者へのアピールが足りないからではないかと感じる。学校での取り組みを積極的に発信してほしい。			
地域保護の者連携	信頼される地域に開かれた学校	A	学校だよりや、学校ホームページ、各種配付物などを通して、生徒の活動や、学校としての取組を発信してきたことで、保護者は学校の様子を知ることができたようである。さらに開かれた学校を目指し、感染防止に配慮しながら学校公開や授業参観など、学校に来る機会を増やしていく。	A	A
その他	部活動	B	保護者に対する「部活動が活発に行われていると思いますか。」という質問に対する肯定的な回答は昨年度の41%から69%と増加している。今後は、社会情勢を鑑みながら、部活動と教員の働き方とのバランスを考慮しながら、生徒の主体的活動を促し、心身の成長に資する活動を行う。	A	A
学校関係者評価委員による意見		部活動に関しては、できる範囲での活動が大切だと思う。生徒数が少ないので多くの部活を開設しても中途半端になってしまうことも考えられる。与えられた環境の中で、子どもたちが有意義な時間を過ごすことができることを期待している。			